

ました。ところが、四郎のからだは、ゴムまりのように丸くなったと思うと、道場の中央に音もなく降り立ちました。

はりつめたような場内のきんちようがゆるんで、観衆は驚きの声をあげました。ねこのような、身軽な四郎の動きに、おそろしさを感じたのは、照島でした。

どどつと、四郎に組みついた照島は、かけよつたいきおいのまま、四郎のそでと帯をつかんで、かるがるとかかえあげ、頭の上にかついだかと思うと、道場のすみにむかって、ほうり投げました。

今度こそ、と照島は立ちあがって、ゴムまりのように、うなりをあげてとんでいく四郎のからだをみつめました。しかし、またしても、四郎は道場のすみに音もなく立って、たたかいをいどんできます。

何分たつたでしょうか。照島の呼吸が、だんだん荒れてきます。気持ちをと